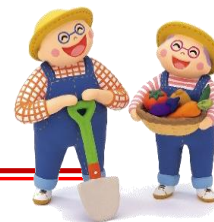


サンビオティック農業で大豊作！

さやインゲン・インゲンまめ 栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
畝立て1か月前	土づくり	有機石灰(苦土入り)	100~200kg	土壌混和	あらかじめ土壌分析に基づいてpHの調整(pH6.5~7.0が最適)、石灰、苦土などの施用をお願いします。特に収量と品質を上げるためには、カルシウム(石灰)は重要なため、省略しないでください。 苦土入りが手に入らない場合は、苦土肥料を元肥と一緒に施用してください。(苦土成分で、10kg/10a程度)
		完熟たい肥 菌力アップ	1トン程度 5リットル	土壌混和 散布(灌水)	バーク堆肥、腐葉土など、できれば植物性の堆肥を1トン程度施用します。五穀堆肥なら50袋、牛糞堆肥なら500kg~1トン。発酵鶏糞や豚糞堆肥の場合は、300kg程度とし、合わせてワラ、もみ殻、落ち葉などを3か月~半年前に土壌混和しておくといはいいです。 堆肥と一緒に菌力アップをまんべんなく散布し、土壌混和します。豆類では、根粒菌の働きを高めるため、水分保持と通気性が非常に重要で、土づくりで微生物を増やし、団粒化した土壌を作ります。
定植1週間前	元肥	有機百倍 鈴成	140~180kg 200kg	土壌混和	有機百倍は、地力や栽培体系によって調整してください。前作によっては、地力窒素がかなり残っている場合があるため、そのような場合は、減肥します。
播種 または 定植	播種 (ポットまたはセルトレー)	野菜用育苗培土 鈴成 菌力アップ	必要量 培土に5%混和 100倍希釈	灌水 7日おき ×4回	初期灌水をたっぷり行い、乾燥防止のため新聞紙などで保湿します。発芽まで灌水しないでください。育苗中は徒長とならないよう、温度管理(15℃以下、30℃以上にならない)、日照確保、やや乾き気味の管理としてください。徒長した場合は、コーソゴールド500倍希釈と純正木酢液500倍の葉面散布を数回実施してください。ポット育苗の場合、本葉2枚まで20日間程度育苗します。セルトレーの場合は、本葉1枚で定植します。
	定植	菌力アップ	100倍希釈	定植前植え穴 灌水、苗のどぶ 漬け、根回し水 の計3回	菌力アップの根粒菌を接種すると同時に、土壌微生物相の改善を図り、フザリウム菌や、ピシウム菌による苗立枯病のリスクを軽減します。定植後、畝上にはもみ殻や裁断ワラで4~5cm程度有機物マルチをすると、長期間土壌の団粒化を維持し、又乾燥を防ぐため、生育が良くなります。
	生育初期	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (随時)	花芽分化促進と病害虫抵抗性向上のために散布します。農業と混合施用して良いです。病害虫がある時は、純正木酢液500倍希釈を併用します。 海王は、植物ホルモンの働きにより早期の草勢展開を図ります。
1段目開花期~		有機百倍 硫酸カリ (又は、ケイ酸カリ)	20kg/回 3kg/回 (10kg)	土壌施肥	1段目開花期以降に1回目追肥、その後は10日おきに追肥します。温度が低い冬季は、より窒素が効きやすい硝酸態窒素を含む化成肥料(硝酸カルシウム、硝酸加里など)を使用する方が良い場合もあります。
		菌力アップ 糖力アップ 本気Ca(マジカル)	5リットル 5kg 1kg	7~10日おきに 継続して灌水	開花期は、糖力アップを多めに灌水すると肥大、花着きが良いです。葉の肥大の為、土壌には水分が必要です。随時乾燥具合を見ながら、灌水作業を行ってください。カルシウムを供給することで、食味、甘味が乗り、歯ごたえのよい食感が生まれ、非常に美味しくなります。 本気Caは、日照不足等による花落ちの予防にも良いです。
		コーソゴールド 本気Ca(マジカル) 海王	500倍希釈 2000倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (随時)	花芽分化促進と病害虫抵抗性向上のために散布します。農業と混合施用して良いです。 病害虫がある時は、純正木酢液500倍希釈、またはイーオス(高酸度食酢)500倍希釈を併用します。 うどんこ病の場合は、イーオス10倍希釈に、ケイ酸カリ(粉末)をイーオスの1/5量混ぜて一晩浸漬し、その上澄み液を併用します。 (例)水9L+イーオス1L+ケイ酸カリ200g →上澄み液を30~50倍希釈で葉面散布

※播種時、定植時以外は、土壌水分が多くなりすぎないように、排水整備、水分管理してください。

※栽培時期や土壌分析結果等により、施肥量は加減してください。

※獲り遅れのないように収穫のタイミングに気をつけてください。

※まめ類は本来、ワックス層が発達した葉を持っており、葉面からの塩基流注(リーチング)が少ないため、塩類を蓄積しやすい植物です。

そのため、家畜糞尿堆肥など塩類の多い堆肥の多用による弊害があるので、できるだけ植物性の堆肥(有機物)を使用してください。